



たかの
高野たけし
無所属 53歳

返子市議会議員（6期）

- ・議会運営委員会委員長
- ・総務常任委員会委員
- ・基地対策特別委員会委員

高野たけしの活動報告

～住みやすいまちづくりに向けて～

市民の皆様から頂いたご意見・ご要望を踏まえて行った令和7年第4回定例会における一般質問の一部をご報告いたします。

◆歳出削減で収支のバランスを維持

令和元年度には97.1%となっていた経常収支比率ですが、行財政改革を行うことで令和2年度には93.2%、令和3年度には85.6%まで引き下げることができました。しかしながら、その後は増加の一途を辿り、昨年度は95.8%に。

最大の要因となっている義務的経費の上昇を抑える努力をしながらも、その上で歳出全体の削減を図っていかねばならない状況にきていることは言うまでもありません。

さらに、今後は学校施設や消防庁舎、浄水管理センターの更新など、大型の公共事業も控えている中で、どのように財政のバランスを図っていくつもりか市長に質したところ、重要度や緊急度などを考慮した予算配分に努めるとともに、引き続き一定期間を経過した事業については見直しも含めた効果測定を実施していく旨の回答がありました。

【経常収支比率の推移】

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
97.1%	93.2%	85.6%	93.5%	94.3%	95.8%

経常収支比率とは…
財政の弾力性を示す指標で、経常一般財源に対する経常的経費の割合をいう。この比率が高いほど経常余剰財源が少なく、財政の硬直化が進んでいることを示している。

政治資金の残り 99,554 円

（令和7年9月～令和7年11月の内訳）

収入…ポスター掲示用両面テープ 5,995円

◆若年がん患者への支援制度を提案

一般には15歳～39歳の世代とされている Adolescent and Young Adult、通称AYA(アヤ)世代は小児から成人へと移行していく時期にあたり、小児に好発するがんと成人に好発するがんがともに発症する可能性のある世代です。この世代の新たながん患者発生数は年間約2万人で全体の2.5%に過ぎませんが、AYA世代の病気による死亡原因のトップはがんによるものとなっています。

40歳未満の末期がん患者は、40歳以上が対象となる介護保険制度の対象外であることから、在宅療養に係る費用の支援を受けることができず経済的負担となっている背景を鑑み、神奈川県では令和4年度から40歳未満の末期がん患者の方が住み慣れた自宅で最後まで安心して自分らしい生活ができるよう、在宅生活に必要な経費の一部を助成する「若年がん患者在宅療養支援事業費補助」をスタートさせています。この制度は県内の市町村が支援事業を実施した際に、その費用の一部(1/3)を神奈川県が補助するものとなっているため、市町村が制度を有していない場合には適用外となってしまいます。

現在、神奈川県内では11の市町で若年がん患者の療養支援事業を実施しているものの、本市においては未実施となっていることから制度の導入を提案。これに対して市長からは、事業化については財政状況を踏まえながら検討していくとの答弁がありました。

■ 整備計画は中止に。今後の見通しは白紙・・・

当初、今年度から整備工事に着手するとしていた久木小学校の長寿命化事業ですが、前面道路の耐荷力が低いことが判明。道路構造調査及び解析が行われた結果、既存構造の一時的な安全性を確保する「仮設工」、既存構造の強化により耐荷力の向上を図る「補強工」、新たな構造物に更新し必要な耐荷力を確保する「架け替え」のいずれも難しいとの結論に達したことから、本事業の中止を決定するとの発表がありました。

教育委員会は、市内公立小中学校全体の施設状態、児童・生徒数の推移などを見極めながら、改めて公立小中学校8校のあり方を検討していくとしています。



■ 自治体間の協議に進展あり。来年度からスタートできるのか？

今年3月からのスタートを予定していた葉山町との生ごみ共同処理ですが、施設整備の遅れや両市町の費用負担割合における見解の相違などもあり、本市では未だ生ごみの分別収集が始められていない状況にあります。

こうした中、課題の一つとなっていた資本費における物価スライド増額分については葉山町側から請求は行わないという申し出があったとのこと。また、本市の生ごみ処理が遅れたことによる損害に関しては両自治体の弁護士が解決に向け話し合うことに。そして、生ごみ搬入量の平準化と年末の生ごみの持ち込みにおいては葉山町側で検討していくこととなりました。

自治体間の協議に進展があったことを受け、本市でも来年度から生ごみの分別収集、処理を行なっていきたいとの考えが市長より示されたところです。

開始にあたっては混乱をきたすことがないように、市民への周知、収集事業者との調整など、丁寧に準備を進めていきたいと思っています。



視察レポート ～地域公共交通・鹿児島県出水市～

総務常任委員会の行政視察にて、鹿児島県北西部に位置する出水市を訪問。

出水市では市民の移動をサポートするため、鉄道・バス・タクシーを補完する公共交通機関として、AIが予約状況に応じて効率的な経路を算出するオンデマンドタクシー



「チョイソコいずん」の運行を令和6年10月からスタート。車両は7人乗りミニバンで、運賃は1回200円(小学生・障がい者手帳所持者は半額、未就学児は大人1人につき1人無料)。事前に会員登録(観光客の方はQRコードから一時利用も可)を行った上で、利用したい当日の30分前までに予約(電話orインターネット)をすれば、希望した停留所に迎えに来てくれる仕組みとなっています。

「チョイソコいずん」が運行している高尾野地域・野田地域には236ヶ所の停留所と5ヶ所のスポンサー停留所を設置し、細かく地域をカバーしています。運行時間は民業圧迫を避けるため平日及び第2・4土曜日の9時～16時に限定されていますが、運行から1年間の乗車人員は延べ2,305人(会員数は592人)となっており、市民の間では新たな足としての活用が進んでいるようです。年間運行予算は約2,180万円と決して安い額とは言えませんが、公共交通空白地帯のカバー、高齢者の出歩きサポートなどを考えると効果の大きい施策であると感じたところです。

本市における新たな公共交通の導入に向けては、対応エリア、運行車両、民間事業者との棲み分けなど課題が山積している状況にあります。今回視察させていただいた出水市をはじめ他自治体の先進事例も参考にしながら、本市にあったカタチを構築していければと考えています。

あなたの声を高野たけしへ



Tel / Fax: 046-871-7368
E-mail: takano_zushi@yahoo.co.jp

高野たけしの活動
ブログはこちらから

